

岩津ねぎだより

令和元年12月20日
岩津ねぎ産地協議会生産支援チーム

今年の岩津ねぎは、8月の猛暑、9月以降の台風の影響から、例年に比べ全体的に生育は遅れています。特に、葉の色が薄いほ場が一部で見られます。

解禁日以降、出荷されたねぎの中に、軟白部の充実不足や出荷規格に合わない物が見られます。

今後の天気は、平年に比べ気温は高く、曇りや雨の日が多い予想となっています。

1、追肥を早急に実施

今年は、9月23日の台風15号の通過以降、台風や前線の影響から、雨の日が多く、土寄せ作業や追肥が遅れ、ほ場の土が硬くなり、根の張りが悪く生育の遅れが見られました。

その結果、12月になっても、葉の伸びが悪く、色の薄いねぎが見られます。(写真1参照)

また、出荷された物の中で、葉の色が薄いねぎは棚持ちが悪く、黄化が早くなり岩津ねぎの品質評価が下がります。

そこで、葉の色が薄く生育の遅れたほ場や出荷時期を考慮して、早急に燐硝安加里S604を10a当たり30キロ施用します。



写真1 葉の色が薄い肥料切れの岩津ねぎ



写真2 順調に生育した出荷前の状況

2、出荷規格を厳守し、計画出荷に努めましょう

一部の商品に、出荷規格に合わない物が出荷されています。JA 出荷、直売所出荷を含め、出荷規格を再確認し、規格に合った調製作業に心がけましょう。クレームの発生は、今後の価格低下の要因につながります。

ねぎの出荷期間は3月まで約3ヶ月あります。急いで出荷せず、ねぎの生育状況をよく確認し、計画的な出荷に努めましょう。

3、雪よけトンネルは天候を見て設置

12月に入って、気温の高く曇りや雨の日が多く、今後とも暖冬と予報が出ています。

写真3のように、早くから雪よけのトンネルを掛けておくと、葉の色が薄くなったり、品質の低下を招きます。

天気の良い日や気温の高い日はトンネルネットをめくり、ねぎの葉に光に当て、品質向上を図りましょう。

また、トンネル設置前には、追肥を実施しましょう。



写真3 張りっぱなしの雪よけトンネル

<問合せ窓口>

和田山営農生活センター : 672-4800 山東営農生活センター : 670-7744

朝来営農生活センター : 670-4341 朝来農業改良普及センター : 672-6886